

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2023
DECEMBER

No. 135

Sun. 3rd December
Niigata Subscription Concert

No. 137

Thu. 7th December
Tokyo Opera City Series

No. 717

Sat. 16th December
Subscription Concert

No. 94

Sun. 17th December
Kawasaki Subscription Concert

Special
Concert

Thu. 28th December
Fri. 29th December

12



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

| | |
|---------|---------------|
| 音楽監督 | ジョナサン・ノット |
| 桂冠指揮者 | 秋山和慶 |
| | ユベール・スダーン |
| 正指揮者 | 原田慶太楼 |
| 名誉客演指揮者 | 大友直人 |
| 永久名誉指揮者 | アルヴィド・ヤンソンス ◆ |
| | 上田 仁 ◆ |
| | 遠山信二 ◆ |

名誉コンサートマスター 大谷康子

コンサートマスター 小林杏成
グレブ・ニキティン

アシスタント・
コンサートマスター 田尻 順

会 長 澤田秀雄
理事長 岡崎哲也
副理事長 平澤 創

依田 巽

専務理事 廣岡克隆

理 事 阿部武彦 辻 敏

池辺晋一郎 永山 治

伊藤美樹 夏野 剛

大橋 博 南部靖之

コンジュンコ 福川伸次

庄司 薫 藤原 洋

菅谷貴子 増岡聡一郎

竹中平蔵 森 京子

監 事 磯村文靖

寺西基之

評議員長 金山茂人

最高顧問

評議員 梅沢一彦 中村紀子

鷺海暲明 星 久人

片山泰輔 山添 茂

加藤英輔

特別顧問 飯島延浩

草壁悟朗

福田紀彦

【ハープ寄贈：環境ステーション株式会社】

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 森岡ゆりあ
- 小川敦子
- 小山あずさ
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 水谷有里
- 吉川万理

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 坂井みどり
- 加藤まな
- 福留史紘
- 阿部真弓
- 河裾あずさ
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 辻田薫り
- 塩谷しずか
- 渡辺裕子

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村眞紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西応興
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃
- 新井瑞穂*

Cellos

- ☆伊藤文嗣
- 回笹沼 樹
- 川井真由美
- 内山剛博
- 鯉江慶行●
- 樋口泰世
- 福嶋茉莉子

Double Basses

- 回助川 龍
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- コーディ・
- ローズブーム
- 渡邊淳子

Flutes

- 相澤政宏
- 竹山 愛

Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 絵理子
- 浦脇健太

- 荒木良太*

Oboe & English horn

最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

Bassoons

- 福士マリ子
- 福井 蔵
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 加藤智浩
- 阪本正彦
- 溝根伸吾

Trumpets

- 澤田真人
- 野沢岳史●
- 松山 萌

Trombones

- 大馬直人
- 鳥塚心輔
- 住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

近藤陽一

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 山村雄大
- 武山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Librarians

林 知也
加藤幸子

Stage Managers

西岡理佐
山本 聡

楽団員

井伊 準◆

楽団長

廣岡克隆

編成局シニア・ディレクター

藤原 真

パーソネル・マネージャー

大和田浩明
謝名元 民

楽団委員

小西応興(議長)
福留史紘(書記)
清水泰明
多井千洋
北村一平
藤井良太

事務局長

辻 敏

事務局

市川萌都
伊藤瑛海
小川博司
■尾木貴雄
桐原美砂
高瀬 緑
竹内裕子
長久保宏太郎
山田道子
□梶川純子
榎 日向*

名誉団友

深江泰輔◆
三木晴雄

団 友

天野佳和 佐々木真
新井 汎 篠崎 隆
安藤史子 菅野明彦
池田 隆 杉浦直基
石川晴依世 鈴木一輝
今村和弘 芹澤英雄
岩澤淳子 曾根敦子
上原正二 武田英昭
上原規照 田中英輔
原未莉 千村雅信
内田彬雄 十亀正司
内田乃例子 龜山 悟
宇都 爽 中塚和良
梅田 学 大隈雅人
大隈雅人 中山 智
大塚正昭 西依智子
大塚良男 西藤智子
大和田ルース 西藤亮治
小川さえ子 野村真澄
萩野 昇 馬場隆弘
原田英保子 原田昌史
白野 奏 奥田昌史
音川健二 ペアング
加藤谷直美 ボーマン
笠原勝二 前田健一郎
甲斐さち 松崎里絵
加藤信吾 丸山正昭
金澤 茂 三浦正信
久保田一穂 宮原祐子
熊谷仁士 宮本直樹
黄原亮司 宮本 睦
小林照雄 森みさ子
小林亮子 諸橋健久
佐川聖二 渡辺 功
渡辺智郎

☆ソロ首席奏者 ●首席奏者 □客演首席奏者 ○フォアシュペーラー ●インスペクター

■本部長 □シニア・ディレクター * 研究員・準事務局員 ◆ 故人

演奏会でのお願い Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットは記載されている座席番号にのみ有効です。
座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



演奏中はお静かに

手荷物に付けている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご
配慮ください。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめく
る音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内
に響きます。

Please be silent during the performance.



開演前に携帯電話、時計のアラーム音、 電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は
必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and
all other noise-emitting electronic devices before the
performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い帽子や高さのある帽子は
脱いでご鑑賞ください。またリズムをとる行為も迷惑になりま
すのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way
which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



ホール内での録音・録画・ 許可のない写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited.



演奏中の飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は場内に響きますので、演奏中の
開封はご遠慮ください。

Refrain from eating and drinking during the performance.



補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、ハウリングの発生を避けるために
きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check
that your device is suitably set before the performance
begins.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。途中入場がある場
合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a
performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえますよう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from
any coughing or sneezing.



曲の余韻も演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance.
Please hold your applause until the actual end of the performance.

カーテンコールの 撮影について

定期演奏会・川崎定期演奏会・東京オペラシティシリー
ズ・特別演奏会にて終演後のカーテンコールの撮影が可
能になりました。撮影は自席にご着席のまま、周りのお
客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

◎前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません

◎フラッシュの使用、目線より
高い位置での撮影はご遠慮ください

◎SNS等に掲載する際は、
ほかのお客様の映り込みにご注意ください

◎スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、
自撮り棒の使用はご遠慮ください

12/3 SUN.

第135回 新潟定期演奏会

2023年12月3日(日) 17:00 リューとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

Niigata Subscription Concert No.135

Sun. 3rd December 2023, 17:00 Ryutopia Concert Hall

川瀬賢太郎 [指揮]

新潟市ジュニア合唱団 [合唱]

馬場 幸 [合唱指揮]

グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

Kentarō Kawase, Conductor

Niigata City Junior Choir

Miyuki Baba, Chorusmaster

Gleb Nikitin, Concertmaster

チャイコフスキー：

組曲《白鳥の湖》op.20aより(28')

I.情景

IV.情景

II.ワルツ

V.ハンガリーの踊り

III.四羽の白鳥の踊り

VI.終曲

P.I.Tchaikovsky：

Swan Lake Suite, Op.20a (28')

I.Scene

IV.Scene

II.Waltz

V.Czardas: Hungarian Dance

III.Dance of the cygnets

VI.Finale

チャイコフスキー：

組曲《眠りの森の美女》op.66aより(18')

I.序奏とリラの精

II.アダージョ：パ・ダクシオン

IV.パノラマ

V.ワルツ

P.I.Tchaikovsky：

The Sleeping Beauty Suite, Op.66a (18')

I.Introduction, La fée de lilas

II.Adagio

IV.Panorama

V.Waltz

休憩(20')

Intermission(20')

チャイコフスキー：

組曲《くるみ割り人形》op.71aより(40')

I.小序曲

VI.こんぺい糖の踊り

II.クリスマスツリー

VII.ロシアの踊り(トレパーク)

III.行進曲

VIII.アラビアの踊り

IV.雪片のワルツ

IX.中国の踊り

V.こんぺい糖の精と
王子のパドゥ

X.あし笛の踊り

XI.花のワルツ

P.I.Tchaikovsky：

The Nutcracker Suite, op.71a (40')

I.Minature Overture

VI.Dance of the Sugar Plum Fairy

II.The Christmas Tree

VII.Russian Dance (Trepak)

III.March

VIII.Arabian Dance

IV.Waltz of the
Snowflakes

IX.Chinese Dance

V.Pas de deux

X.Dance of the Reed Flutes

XI.Waltz of the Flowers

●主催／公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

●助成／文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

新潟定期演奏会は、新潟市からの補助金の交付を受けて実施しています。

楽曲解説はP.06をご覧ください



12/3 SUN.



©Yoshinori Kurosawa

Kentaro Kawase

Conductor

川瀬賢太郎

[指揮]

84年東京生まれ。07年東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻(指揮)を卒業。これまでに指揮を広く上淳一などの各氏に師事。06年10月、東京国際音楽コンクール<指揮>において2位(最高位)に入賞。11年4月には名古屋フィル指揮者に就任、14年4月より神奈川フィル常任指揮者に就任(22年3月末まで)。卓越したプログラミングを躍動感あふれる演奏で聴衆に届けている。

オペラにおいても、細川俊夫作曲「班女」、[リアの物語]、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」、ヴェルディ作曲「アイダ」などを指揮、目覚ましい活躍を遂げている。オーケストラ・アンサンブル金沢パーマネント・コンダクター、札幌交響楽団正指揮者、三重県いなべ市親善大使。15年渡邊暁雄音楽基金音楽賞、16年第14回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第26回出光音楽賞などを受賞。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)特任講師。23年4月より名古屋フィル第6代音楽監督に就任。

Born in Tokyo in 1984 and graduated with a degree in conducting from the Tokyo College of Music in 2007, having studied under Junichi Hirokami, Yasuhiko Shiozawa and others. Was awarded 2nd place (which was the highest level with no 1st place) at the Tokyo International Music Competition for Conducting in 2006, and since then Kawase has received numerous invitations from orchestras near and far. In recent years, he has conducted the likes of Toshio Hosokawa's "Vision of Lear", Mozart's "Le Nozze di Figaro", "Die Entführung aus dem Serail" and "Die Zauberflöte", and Verdi's "Aida". Kawase has distinguished himself in garnering attention not only for orchestral but also for operatic performances.

Kawase is presently the music director of the Nagoya Philharmonic Orchestra, permanent conductor with the Orchestra Ensemble Kanazawa and the resident conductor of Sapporo Symphony Orchestra.

Miyuki Baba

馬場 幸 [合唱指揮／新潟市ジュニア合唱団指導者]

桐朋学園大学音楽学部声楽専攻を卒業。小学校から新潟市ジュニア合唱団に在籍し、さまざまなコンサートやオペラ、レコーディングに参加。声楽を海野美栄、丹藤麻砂美、木村俊光の各氏に師事。さまざまな合唱団に携わり、広く活動している。



Ayumi Takahashi

高橋歩美 [稽古ピアノ／新潟市ジュニア合唱団指導者]

新潟大学教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース卒業。器楽・合唱のコンクールやコンサートの伴奏ピアニストとして活動しており、ピアノ指導にも積極的に取り組んでいる。



Niigata City Junior Choir

新潟市ジュニア合唱団

新潟市ジュニア合唱団は、ジュニアオーケストラ教室、ジュニア邦楽合奏教室とともに、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団が主宰する青少年のための音楽教室。

歌の大好きな小学2年生から高校3年生まで約100名で構成される少年少女合唱団で、クラシック音楽、日本の歌、ポップラー、合唱ミュージカルなど多彩なレパートリーを持ち、年1回の定期演奏会、県内の少年少女合唱団との交流演奏会、各種イベントをはじめ、リ्यूーとぴあ専属オルガニストや東京交響楽団と共演を重ねるなど、年間を通して活発に活動している。

Soprano I

佐々木 歩
野田 紗央
伊藤 千浩
内山 暁
本間 埜乃歌
山木 蘭
佐々木 湊
鈴木 桃華
瀬戸 麻楠
永井 友紀乃

Soprano II

飯原 真帆
棗田 千花
榎本 天音
田巻 和夏
渡邊 小陽
廣田 結衣子
和田 陽向
風間 友里
小山 夏未
坂井 絢香
鈴木 将太
林原 穂幸

Mezzo Soprano

田代 杏那
櫻井 颯夏
三崎 彩
北村 もも

Alto

加藤 太一
瀬戸 悠椿
齋藤 旭
齋藤 千紘
阿部 森音
大野 愛莉
小田嶋 心
田村 皐月
近藤 彩音

12/3 SUN.

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840～1893)

組曲《白鳥の湖》op.20aより

本日はチャイコフスキーの三大バレエをダイジェスト版でお届けする。《白鳥の湖》が1870年代半ば、《眠れる森の美女》が80年代終わり、《くるみ割り人形》が90年代はじめに作曲されており、作曲順にお聴きいただく。

《白鳥の湖》の舞台は中世ドイツ。今日よく知られているのは、作曲家の死後に改訂されたプティパ&イワノフ版である。バレエのあらすじをたどろう。

成人を迎えるジークフリート王子は狩りに出かける。白鳥を射ようとしたところ、白鳥がオデット姫に変身。悪魔に呪いをかけられた姫は、昼間は白鳥に変えられてしまうのだ。王子と姫はひかれあい、一生をかけた愛によってこの呪いを解く約束をする。後日、舞踏会が開かれると、悪魔の魔法によってオデット姫にそっくりの娘オディールが登場。だまされた王子は、誤ってオディールに愛を誓ってしまう。呪いはもう永遠に解けない。このことを知ったオデット姫は、白鳥たちに囲まれ、絶望のあまり湖に身を投げたのだった—このような悲しい結末のほか、二人の愛の力が呪いに打ち勝つといったハッピーエンドが演出される場合もある。

作曲から数年経った1882年、チャイコフスキーはこのバレエからいくつかの曲を抜粋して演奏会用組曲を作りたいと手紙で書いている。しかし組曲は存命中には実現されず、組曲版スコアは死後の1900年に出版された。誰が選曲したのか正確なことはわかっていない。

第1曲「情景」は王子と姫が出会う直前の曲で、山や森、月光に照らされた湖の情景を描く。**第2曲「ワルツ」**は、成人になる王子を祝って城で踊られる物語冒頭の曲。**第3曲「四羽の白鳥の踊り」**では、王子の警戒心を解いて小さな白鳥たちが踊り、続く**第4曲「情景」**で王子と姫が対話する。姫にそっくりの娘オディールが登場する舞踏会で踊られる各国の踊りからは、**第5曲「ハンガリーの踊り(チャルダッシュ)」**をお楽しみいただく。**第6曲「終曲」**は二人の結末を暗示する。

西田紘子 Text by Hiroko Nishida

作曲(バレエ): 1875～1876年、1877年に改訂

初演(プティパ&イワノフ版バレエ): 1895年1月15日サンクトペテルブルク、リッカルド・ドリゴの指揮

編成: ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、ホルネット2、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、トライアングル、大太鼓、シンバル、タンバリン、カ斯塔ネット、ハーブ、弦5部

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840～1893)

組曲《眠りの森の美女》op.66aより

フランスの作家シャルル・ペローが1697年に発表した昔話にもとづく。帝室劇場の支配人から作曲を打診されたチャイコフスキーは、このおとぎ話をとても気に入り、多忙のなか書き上げた。

初演に先立ち、作曲家は、弟子アレクサンドル・ジロティにピアノ独奏版の編曲を頼んでいる。のちに、若きセルゲイ・ラフマニノフによってピアノ連弾版も編まれたが、この連弾版についてチャイコフスキーは「創造性がない」と不満をもらしている。

物語はお城を舞台にスタート。フロレスタン国王の娘オーロラ姫が、悪の妖精カラボスに「いずれ自分の指を刺して死んでしまうだろう」と呪いをかけられる。悲しみに暮れる国王たちに対して、リラ(ライラック)の精が「死ぬのではなく、100年眠り続け、王子の口づけによって目覚めるようにしましょう」と救いの手をさしのべる。時は経ち、誕生日を迎えたオーロラ姫。4人の求婚者に迫られるが、カラボスの予言通り、指に針を刺してしまう。そこにリラの精が現れ、魔法でみんなを100年の眠りにつかせるのだった。

100年後、森で狩りをしていたデジレ王子に、リラの精がオーロラ姫の幻影をみせる。王子は姫に一目ぼれ。リラの精とともにお城に行きカラボスを追い払い、姫に口づけする。最後は、さまざまな踊りが続く華やかな結婚式で終わる。

作曲家は、このバレエからも演奏会組曲を作りたいと考え、選曲に頭を悩ませていたが、生前には実現されず。死後、5曲からなる組曲版が出版された。本日は第3曲の踊りを除く4曲を演奏する。

第1曲「序奏とリラの精」は、物語冒頭の序奏と、100年の眠りにつかせるリラの精が登場する音楽をつないだもの。**第2曲「アダージョ：パ・ダクシオン」**では、薔薇をもった求婚者たちがオーロラ姫と踊る。**第4曲「パノラマ」**は、デジレ王子とリラの精が森を抜けて城へ向かうときの音楽。**第5曲「ワルツ」**は、オーロラ姫の誕生日に集まった村人たちの踊りだ。

西田紘子 Text by Hiroko Nishida

作曲(バレエ): 1888～1889年

初演(バレエ): 1890年1月15日サンクトペテルブルク、リッカルド・ドリゴの指揮

編成: ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、ホルネット2、トランペット4、トロンボーン3、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、タムタム、グロックンシュピール、シンバル、ハーブ、弦5部

12/3 SUN.

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840～1893)

組曲《くるみ割り人形》op.71aより

帝室劇場が、クリスマスの季節向けに、オペラとバレエを組み合わせたプログラムを企画したことから生まれた作品。ドイツの作家E.T.A.ホフマンの『くるみ割り人形とねずみの王様』をフランスのアレクサンドル・デュマ(父)が翻案したおとぎ話が原作だ。

2幕からなるバレエのあらすじは次のとおり。主人公クララは、クリスマス・プレゼントにくるみ割り人形をもらう。人形は、ネズミの群れに勝利して王子に姿を変え、クララも王女に変身。二人はお菓子の国に行き、女王である金平糖の精や、お菓子の精たちから歓迎される。

チャイコフスキーは民謡好きで知られる。幼い頃は町で耳にした歌を記憶し、家で即興演奏していたという。大人になってからは民謡集を出版し、自身の作品のなかで活用した。本作でも各地の民謡が聴かれるが、作曲中に亡くなった最愛の妹をしのぶ思いもあったのかもしれない。

バレエ初演に先立ち、8曲からなる組曲が作曲者自身の指揮で初演された。本日はこの組曲に、第1幕から「クリスマスツリー」と「雪片のワルツ」、第2幕から「こんぺい糖の精と王子のパドゥゥ」の3曲を加えた特別バージョンが演奏される。演奏順にたどろう。

「小序曲」と次の「クリスマスツリー」はパーティの華やいだ情景を描く。部屋で子供たちがはしゃぐ「行進曲」に続き、児童合唱つきの「雪片のワルツ」では、王子と王女に変身したくるみ割り人形とクララが、雪の舞う森を抜けてお菓子の国へ。「こんぺい糖の精と王子のパドゥゥ」ではシンプルなメロディがしだいに盛りあがる。「こんぺい糖の踊り」ではチェレスタが活躍。これは数年前に発明されたばかりの新楽器で、作曲家はパリで出会って一目ぼれした。「ロシアの踊り(トレパーク)」「アラビアの踊り」「中国の踊り」「あし笛の踊り」ではグロッケンシュピールやタンバリン、フルートなどが活躍する。女王の侍女たちが踊る「花のワルツ」でしめくくり。

西田紘子 Text by Hiroko Nishida

作曲: 1891～1892年

初演(バレエ): 1892年12月18日サンクトペテルブルク、リッカルド・ドリゴの指揮

編成: フルート3(ピッコロ持替2)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、グロッケンシュピール、タンバリン、タムタム、ラチェット、カスターネット、シンバル、トライアングル、大太鼓、小太鼓、ゴング、チャイム、ホイップ、トイドラム、発砲音、ハーブ2、チェレスタ、弦5部

12/7 THU.

東京オペラシティシリーズ 第137回

2023年12月7日(木) 19:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.137

Thu. 7th. December 2023, 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

秋山和慶 [指揮]

三宅理恵 [ソプラノ]

小泉詠子 [メゾソプラノ]

福井 敬 [テノール]

妻屋秀和 [バス]

東響コーラス [合唱]

河原哲也 [合唱指揮]

グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

Kazuyoshi Akiyama, Conductor

Rie Miyake, Soprano

Eiko Koizumi, Mezzo Soprano

Kei Fukui, Tenor

Hidekazu Tsumaya, Bass

Tokyo Symphony Chorus, Chorus

Tetsuya Kawahara, Chorusmaster

Gleb Nikitin, Concertmaster

ワーグナー: 楽劇「ニュルンベルクの
マイスタージンガー」第1幕への前奏曲(11')R.Wagner: "Die Meistersinger
von Nurnberg", Act I: Prelude (11')ベートーヴェン: 交響曲 第9番 二短調
op.125 [合唱付] (70')L.v.Beethoven: Symphony No.9
in D minor, op.125 "Choral" (70')

I. アレグロ・マ・ノン・トロツポ、ウン・ポコ・マエストーソ

I. Allegro ma non troppo, un poco maestoso

II. モルト・ヴィヴァーチェ〜プレスト

II. Molto vivace - Presto

III. アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

III. Adagio molto e cantabile

IV. プレスト〜アレグロ・アッサイ

IV. Presto - Allegro assai

●主催 / 公益財団法人東京交響楽団

●助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

本公演には休憩がありません。

楽曲解説はP.13をご覧ください



12/7 THU.



© 堀田カヲ

Kazuyoshi Akiyama

Conductor

秋山和慶

[指揮]

Conductor Laureate

桂冠指揮者

2024年に指揮者生活60年を迎える秋山和慶は、齋藤秀雄のもとで指揮法を修め、1964年に東京交響楽団を指揮してデビューののち同団の音楽監督・常任指揮者を40年間にわたり務める。その間アメリカ響音楽監督、バンクーバー響音楽監督（現在桂冠指揮者）、シラキウス響音楽監督、大フィル首席指揮者、札幌首席指揮者、広響首席指揮者、九響首席指揮者などを歴任。

これまでにサントリー音楽賞、芸術選奨文部大臣賞、大阪芸術賞、毎日芸術賞、川崎市文化賞などを受賞。2001年紫綬褒章、2011年旭日小綬章を受章。2014年度文化功労者へ選出。現在、中部フィル芸術監督・首席指揮者、センチュリー響ミュージックアドバイザー、岡山フィルミュージックアドバイザー、東響桂冠指揮者、広響終身名誉指揮者、九響桂冠指揮者、オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ芸術顧問、洗足学園音楽大学芸術監督・特別教授、京都市立芸術大学客員教授など多くの任を務めている。

Born in 1941, Kazuyoshi Akiyama studied conducting under Hideo Saito at the Toho Gakuen School of Music. Akiyama has held prestigious posts such as Music Director of the American Symphony Orchestra (1973-1978) and the Vancouver Symphony Orchestra (1972-1985). During this time, Akiyama's reputation spread to Europe and throughout North America, where he has been invited to conduct the Royal Philharmonic Orchestra, the NDR Symphony Orchestra, the Orchestre de la Suisse Romande, the New York Philharmonic, the Boston Symphony Orchestra and many others. He is the recipient of numerous highly prestigious honors in Japan including the Person of Cultural Merit (2014) for his outstanding cultural contributions.

Akiyama currently holds the title of Conductor Laureate of the Tokyo Symphony Orchestra, the Kyushu Symphony Orchestra and the Vancouver Symphony Orchestra; Honorary Conductor for Life of the Hiroshima Symphony Orchestra, and Permanent Conductor and Music Director/Principal Conductor of the Chubu Philharmonic Orchestra.

In 2014, he celebrated the 50th anniversary of his conducting career.

Rie
Miyake
Soprano
三宅理恵
【ソプラノ】



東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。同大学院首席修了後、渡米。特待奨学生として、バード音楽院修士課程修了。日生劇場「フィデリオ」マルツェリーネ、P.ヤルヴィ指揮「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナ、新国立劇場「夜鳴きうぐいす」タイトルロール、「オルフェオとエウリディーチェ」アモーレ、「子どもと魔法」火／お姫様／夜鳴き鶯、C.ミヨンファン指揮「ファルスタッフ」ナンネッタ等出演。コンサートでもF.ルイーゼ指揮サイトウ・キネン・オーケストラ「復活」、小澤征爾指揮水戸室内管「第九」等で好評を博している。二期会会員

Eiko
Koizumi
Mezzo Soprano
小泉詠子
【メゾソプラノ】



東京学芸大学卒業。東京藝術大学大学院博士課程修了、博士号取得。文化庁在外研修員として渡伊。新国立劇場『スーパーエンジェル』ルイジ、『魔笛』侍女Ⅱ、『ボリス・ゴドゥノフ』フォードル、グランドオペラ共同制作『カルメン』メルセデス、二期会『ファウストの劫罰』マルグリート、『ノルマ』アダルジーザ等で好評を博す。また、プラハ八国立交響楽団管弦楽団、コンボ交響楽団とのモーツァルト「レクイエム」等、コンサート・ソリストとしても活躍している。第15回岩城宏之音楽賞受賞。東京藝術大学および東京学芸大学非常勤講師。二期会会員

Kei
Fukui
Tenor
福井 敬
【テノール】



国立音楽大学卒業。同大学院修了。文化庁在外研修員として渡伊。新国立劇場開場記念公演『ローエングリン』および二期会「オテロ」タイトルロール、「トゥーランドット」カラフ、びわ湖ホール「ニルンベルクのマイスターズinger」ヴァルター、兵庫県立芸術文化センター「トスカ」カヴァラドッシ等輝かしい声と卓越した表現力で聴衆を魅了している。「第九」では、小澤征爾指揮水戸室内管や、Z.メータ指揮ウィーン・フィルと共演する等国際的な指揮者からの信頼も厚い。第65回芸術選奨文部科学大臣賞等受賞歴多数。国立音楽大学教授。二期会会員

Hidekazu
Tsumaya
Bass
妻屋秀和
【バス】



東京藝術大学卒業、同大学院修了。ライブツィヒ歌劇場およびワイマール・ドイツ国民劇場の専属歌手を務め、国内でも全国各地の劇場で活躍。近年、新国立劇場「ドン・カルロ」フィリップ二世、「げらの騎士」オックス男爵、二期会『魔笛』ザラストロ、びわ湖ホール「神々の黄昏」ハーゲン、日生劇場「マクベス」バンクォー等、これまで出演したオペラは70余作、演じた役は100役、公演数は1000回を超える。オーケストラ・コンサートにも多数出演、古典から現代までレパートリーも幅広い。第72回芸術選奨文部科学大臣賞等多数受賞。二期会会員

12/7 THU.

Tetsuya Kawahara

Chorusmaster **河原哲也** [合唱指揮]

東京音楽大学指揮科卒業。東京音楽大学研究科指揮専攻修了。

指揮を三石精一、松本紀久雄、音楽理論を有馬礼子の各氏に師事。

大学在学中よりオペラ公演の音楽スタッフとして活動を始め、現在、新国立劇場・東京二期会・日本オペラ振興会等に於いて音楽スタッフとして合唱指揮・副指揮を務めている。



Tokyo Symphony Chorus

Chorus **東響コーラス** [合唱]

1987年に東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。指導には、演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した合唱指揮者、発声指導者、伴奏ピアニスト、言語指導者を招いている。公演毎に出演者を決定するオーディションを行うことで、常に演奏の質を高めている。2020年には第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「室内楽・合唱部門」受賞。

コロナ禍によりしばらくの活動休止期間を経て、2021年9月「名曲全集」にて東京交響楽団と2年ぶりの共演。音楽監督ジョナサン・ノットと2年半ぶりの共演となった2022年5月「ウォルトン：ベルシザガールの饗宴」、同年12月「ベートーヴェン：交響曲第9番」は絶賛を博した。

メンバー表

●合唱指揮：河原哲也

稽古ピアニスト：古瀬安子

発声指導：大沼 徹、高橋 淳

武内朋子

●委員長 岡野一哉 (Bas.)

●副委員長 鳥居順子 (Sop.)

堀 浩史 (Bas.)

●パートリーダー

Sop. (正) 遠藤由理 (副) 岡 邦子
佐藤由紀子Alt. (正) 水越睦美 (副) 岡橋麻衣
齋藤由紀

Ten. (正) 枇杷高志 (副) 内山誠彦

Bas. (正) 水野 敬 (副) 竹内誠治

●コーラス委員

Sop. 草野真由美、森田恵子
山下由美子

Alt. 竹内あゆみ、奥貫壮史

吉村美恵子

Ten. 大崎 純、奥貫壮史
木村 健

Bas. 荒木康司、杉山慎二

Soprano

相田奈寿紀

石井真穂

石井 恵

石村友希子

伊藤貴子

岩元邦子

遠藤由理

大貫由香

岡 邦子

小田切明子

金杉知子

川崎仁美

川之上裕美子

草野真由美

佐藤かえで

佐藤深雪

佐藤由紀子

島崎尚美

鈴木信恵

鈴木美和

瀬沼紀子

鳥居順子

仁平朋子

松本恵美

森田恵子

森本由希

山下由美子

山田美生子

山津裕美

山之内文子

Alto

石渡範子

伊藤晴子

大内田由紀子

大島裕美子

岡橋麻衣

奥山由里

尾崎いずみ

尾田雅代

垣花亜妙子

加藤由美子

菊池万美子

岸本裕子

木内道子

小林朋子

小張さゆり

齋藤由紀

坂元靖子

坂本タカ子

佐々木美登

須田真理子

関口あずみ

高田恵子

竹内あゆみ

田中美樹

都築靖子

外山恭子

根津千佳子

日野由美子

藤崎幸子

藤田 栄

水越睦美

吉井久美子

吉岡美佳子

吉村美恵子

渡邊朋子

Tenor

新 修治

内山誠彦

大崎 純

小川英樹

奥貫壮史

奥村博康

木村 健

木村 貴

住吉保人

竹内邦夫

竹田 忍

田戸陽一

谷川俊一郎

塚本 隆

佃 浩一

辻 直浩

中原裕幸

西 宏隆

野口 晃

服部俊治

枇杷高志

古牧泰山

増淵 隆

水谷靖彦

和田 敏

Bass

荒木康司

安藤志津夫

大足士郎

岡野一哉

河村太郎

菊池 靖

木内正則

河野 愛

小山治彦

篠田一朗

杉山慎二

清水 達

竹内誠治

土井 丈

中村基孝

萩野 慎

花田和彦

早川克己

堀 浩史

松木 望

水野 敬

宮坂知明

柳谷一彦

矢野 通

山之内達也

リヒャルト・ワーグナー (1813 ~ 1883)

楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲

『さまよえるオランダ人』以降、リヒャルト・ワーグナーが手がけた主要作品において、純粹に喜劇と呼びうる作品は唯一本作だけである。最初期の台本草稿は、『タンホイザー』の成立と期を同じくする1845年7月に完成してはいたが、実際に15~16世紀に活躍したマイスタージンガー（歌の芸術をも追究した職人）たちの事績を調べつつ、亡命生活を余儀なくされ、改訂は断続的に1861年まで続く。翌年にはようやく台本を書き上げ、直ちに作曲に着手するが、当時のワーグナーは貧窮のどん底にあり、なかなか筆は進まない。1864年、バイエルン王国のルートヴィヒ二世によって救われたことで状況は一変。1867年には無事音楽も完成し、翌68年6月にはミュンヘンで、ハンス・フォン・ビューローの指揮によって初演された。

前作『トリスタンとイゾルデ』に比べるとやや小さなオーケストラ編成が取られている（あまり編成の変わらない作品例として、よくベートーヴェン『交響曲第6番「田園」』が例に挙げられる）。第1幕の前奏曲では、この作品全体を「要約」するかのように、『トリスタン』前奏曲では意図的に放棄したソナタ形式の枠組みの中で作品世界の全体像が語り尽くされる。冒頭に堂々と登場するマイスターの動機（ハ長調）がソナタ形式における提示部の第1主題であり、第2主題は騎士ヴァルターとポグナーの娘エーファの愛を表す動機となる（ホ長調）。展開部では、このマイスターの動機が木管のおどけた調子で演奏され（変ホ長調）、書記官ベックメッサーによる妨害にもめげないふたりの愛の強さが描かれる。再現部ではハ長調が大々的に回帰し、この愛の動機がマイスターの動機によって下支えされながら多声部の音楽として進行する。ふたりの愛がザックスの自己犠牲、そしてマイスターとしてエーファを愛することによって成就することが示される。この再現部ではかなりの部分が第3幕幕切れの音楽を先取りしており、上演に4時間以上を要する長大な楽劇の最初と最後を有機的に結びつけている。

広瀬大介 Text by Daisuke Hirose

作曲：1862年3月~1867年10月24日

初演：1868年6月21日、バイエルン宮廷歌劇場（ミュンヘン）、ハンス・フォン・ビューロー指揮

編成：ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ、シンバル、トライアングル、ハーブ1、弦5部

12/7 THU. 28 THU. 29 FRI.

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)

交響曲 第9番 二短調 op.125「合唱付」

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの「交響曲第9番」は、彼の記念碑的な作品である。ここで彼が伝えようとした中心的メッセージは、言わずと知れた第4楽章の『歓喜に寄す』、なかでも「すべての人は兄弟になる」という理念だったと考えられる。交響曲全体は二短調の第1楽章から、スケルツォ風の第2楽章、そしてたいへん美しい変奏形式による第3楽章を経て、二長調の第4楽章へ——「交響曲第5番」と同様、「闇から光へ」という構造になっている。激しい不協和音とともに始まる第4楽章では、第1～3楽章の楽想が短く回想され、器楽で「歓喜の主題」が提示された後、バリトンのソロによって「おお、友よ、こんな音楽はよそう！」とそれらが否定される。そして「もっと快い、喜ばしい音楽を始めようではないか！」という呼びかけに応じるように『歓喜に寄す』が導入されるのである。

フリードリヒ・シラーの詩『歓喜に寄す』は、1786年に発表されるとすぐに話題を呼んだ。ベートーヴェン以外にも40人以上が歌にしたことが知られている。若い頃から生涯にわたってシラーの文学に親しんでいたベートーヴェンも、早くからこの詩に関心を持ったようだ。まだ故郷のボンで活動していた1792年、22歳の頃にはすでに、この詩に作曲しようとしていたという証言がある。その後彼は、何度かこのアイデアに立ち戻り、作曲を試みたが、どれも完成には至らなかった。それでも、この詩に曲を付けるというアイデアをベートーヴェンは長く温め続けた。

それが具体化したきっかけは、1817年にロンドンから2曲の交響曲を委嘱されたことであった。このとき、交響曲という器楽のジャンルに声楽を盛り込む、という斬新なアイデアが生まれた。しかしこれは、ベートーヴェンにとっても容易なことではなかったようで、かなり構想が進んだ段階のスケッチでさえ、「器楽フィナーレ」の可能性も模索されていた。

ベートーヴェンが本格的に「第九」に取り組んだのは1823年春頃からである。彼にしては珍しく、この時期は「第九」の作曲だけに集中し、第1楽章から順に書き上げていった。完成したのは1824年初頭、53歳のことであった。

そして迎えた1824年5月7日の初演。演奏会を告知するポスターには、大きな文字でベートーヴェンが「総指揮に参加する」と書かれており、ベートーヴェンが姿を現す、そのこと自体が格別の意味をもっていたと想像される。もっとも、難聴が進んでいた彼が実際に指揮者として全体を統率することは難しく、各楽章の冒頭のテンポを指示するだけであった。ともあれ、この初演は拍手喝采の大成功を収めた。しかし、一度聴いただけでは

よく理解できなかった、というのが聴衆の本音だったようだ。『総合音楽新聞』には「この真に類まれなフィナーレは、もっと凝縮された形であったならばはるかに多くの感銘を与えたに違いない、そして残酷な運命が自分自身の作品を聴く能力を作曲家から奪わなかったならば、作曲家自身も同意見であろう、と固く確信している」という（いまでは信じがたいような）コメントに続けて「ただ一つの望みは、この驚異的な作品がただちに再演されること」だと記されている。その後、世界中で数え切れないほど再演され続けるとは、当時の人々も、作曲家自身も、まったく予想していなかったことだろう。

「第九」はこれまでさまざまな場面で演奏されてきた。それは、音楽の美しさもさることながら、シラーとベートーヴェンのメッセージに強く訴えかけるものがあるからであろう。「この世のしきたりが 容赦なくひき裂いたものを、ふたたび結びつけてくれる」——日本ではコロナ禍を経て、再び（リモート・アンサンブルではなく）同じ空間で、多くの人々がともに演奏できるようになった。しかし世界に目を転じると、『歓喜に寄す』で歌いあげられる内容がユートピアのように感じられてしまう悲慘な状況がある。各地で分断が起こっている今、この交響曲がもつ人類愛という理念は、より一層切実なものとして鳴り響くのではないだろうか。

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロツポ、ウン・ポコ・マエストーソ

第2楽章 モルト・ヴィヴァーチェ〜プレスト

第3楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

第4楽章 プレスト〜アレグロ・アッサイ

越懸澤麻衣 Text by Mai Koshikakezawa

作曲：1818年、1822～1824年

初演：1824年5月7日ウィーン、ミハエル・ウムラウフ指揮

編成：ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、トライアングル、シンバル、大太鼓、弦5部、独唱（ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、バリトン）、混声合唱

L.v.Beethoven: Symphony No.9 in D minor, op.125, "Choral"

[歌詞対訳]

ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調 op.125 「合唱付」

訳: 船木篤也

Aus "Ode an die Freude" von Friedrich Schiller

Baritone Solo

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern lasst uns angenehmere
anstimmen und freudenvollere!

Baritone Solo & Chorus

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum.
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt.

Quartet & Chorus

Wem der große Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein;
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund!

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur,
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod,
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

Tenor Solo & Chorus

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig wie ein Held zum Siegen.

Chorus

Seid umschlungen, Millionen!
Diesen Kuss der ganzen Welt!
Brüder über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such ihn über'm Sternenzelt,
Über Sternen muss er wohnen.

フリードリヒ・シラー 「歓喜に寄す」より

バリトン独唱

おお友よ、こんな音楽はよそう!
ここからは、もっと快い、喜ばしい
音楽を始めようではないか! (ベートーヴェン作)

バリトン独唱と合唱

喜びよ、神々のうるわしき火花よ
エリュシオンの娘よ
われらはその火花に酔いしれ
この上なきお前、お前の聖域に入るよ
お前の魔力は、この世のしきたりが
容赦なくひき裂いたものを、ふたたび結びつけてくれる
人はみな兄弟となる
お前の翼が、そっと憩うところぞ

四重唱と合唱

ある者の友となる
幸せを得た者は
やさしい妻を手にした者は
この歓呼に加わりたまえ!
そう、ただ一人でもかまわない
この地球上に、自分のものと呼べる人があるならば!
それがどうしてもできない者は、ひっそりと
涙して、この同盟から出てゆくがよい!

生きとし生けるもの、喜びを
自然の乳房よりすする
善人も、悪人も
自然が敷く、ばら色の道をゆくばかり
自然はわれらに、幾多のくちづけを、たわわなる葡萄を
死を耐えぬいた友を与えてくれた
虫にも快樂が分け与えられたのだ
智天使ケルブが、神の御前に立っている!

テノール独唱と合唱

意気揚々、星々が
天の輝かしい軌道を、飛びめぐるように
ゆけ、兄弟たちよ、おのれの道を
喜び勇んで、勝利にむかう英雄のように!

合唱

抱かれてあれ、もろ人よ!
この口づけを、全世界に!
兄弟たちよ、天穹(てんきゅう)のかあなたに
愛する父は、おられるはず

もろ人よ、ひれ伏しているか?
人の世よ、かの創造者を予感するか?
天穹のはるかあなたに、求めるがよい
星辰(せいしん)のかあなたに、かの人はおられるはず

12/16 SAT. 17 SUN.

第717回 定期演奏会

2023年12月16日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.717

Sat. 16th. December 2023, 18:00 Suntory Hall

川崎定期演奏会 第94回

2023年12月17日(日) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert No.94

Sun. 17th. December 2023, 14:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

ユベール・スダーン [指揮]
グレブ・ニキティン [コンサートマスター]Hubert Soudant, Conductor
Gleb Nikitin, Concertmaster

シューマン:

交響曲 第1番 変ロ長調 op.38
「春」(マーラー版) (32')

- I. アンダンテ・ウン・ポコ・マエストロソ〜
アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ
- II.ラルゲット
- III.スケルツォ:モルト・ヴィヴァーチェ
- IV.フィナーレ:アレグロ・アニマート・エ・エネルジコ

休憩(20')

ブラームス/シェーンベルク編:
ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 op.25 (45')

- I.アレグロ
- II.インテルメッツォ:アレグロ・マ・ノン・トロツポ
- III.アンダンテ・コン・モート
- IV.ロンド・アラ・ツィンガレーゼ:プレスト

R.Schumann:

Symphony No.1 in B flat major op.38
“Spring” (Mahler Edition) (32')

- I.Andante un poco maestoso -
Allegro molto vivace
- II.Larghetto
- III.Scherzo. Molto vivace
- IV.Finale. Allegro animato e grazioso

Intermission(20')

J.Brahms: Piano Quartet No.1 in G minor,
op.25 (arrangement by A.Schönberg) (45')

- I.Allegro
- II.Intermezzo: Allegro ma non troppo
- III.Andante con moto
- IV.Rondo alla Zingarese: Presto

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)|独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援/川崎市、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(12/17)
- 協力/ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)(12/17)

楽曲解説はP.19をご覧ください

Suntory Hall
Symphony HallMUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALLMUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

12/16 SAT. 17 SUN.



Hubert Soudant

Conductor

ユベール・スダーン
[指揮]

Conductor Laureate
桂冠指揮者

現在、東京交響楽団桂冠指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢の名誉アーティストック・アドバイザーを務めるユベール・スダーンは、1946年、オランダ・マーストリヒト生まれ。ブザンソン国際指揮者コンクール優勝、カラヤン国際指揮者コンクール第2位などに輝き、その後、フランス国立放送フィル、ザルツブルク・モーツァルテウム管の首席指揮者、東京交響楽団音楽監督などを歴任。その他、ベルリン・フィル、ロンドン響、ミュンヘン・フィル、ドレスデン・シュターツカペレ、ミラノ・スカラ座管、ローマ・サンタ・チェチーリア管など主要なオーケストラと共演し、オペラの分野でもパリ、パルマ、パレルモ、ボローニャなどのオペラハウスで精力的に活動を展開。2004年7月、ザルツブルク市名誉市民およびオーストリア・ザルツブルク州ゴールドン勲章を授与された。

また近年では、大阪フィル、兵庫芸術文化センター管、札幌、名古屋フィル、京響などとも友好な関係を築いている。

Born in Maastricht. Hubert Soudant conducts the most prestigious European orchestras such as, Berliner Philharmoniker, the London Philharmonic Orchestra, London Symphony Orchestra, the Bamberg Symphony Orchestra, the Vienna Symphony Orchestra, Munich Philharmonic, Stuttgart Radio Symphony Orchestra, Hamburg Radio Orchestra, Frankfurt Rundfunk Orchestra, Dresdner Staatskapelle, K.B.S. Symphony Orchestra of Seoul, Sydney Symphony Orchestra, Madrid, National Orchestra of Paris and the great part of the Italian orchestras, like Orchestra of Scala Milan, Santa Cecilia in Rome and many others. As an opera conductor he conducted operas at de la Bastille, Salzburg Festival and at all Italian opera houses like Parma, Catania, Palermo, Trieste and Bologna. Since September 2014, he is the Conductor Laureate of Tokyo Symphony Orchestra in Japan, with which won "Best Concert Performance by Japanese Artist" at the 21st Music Pen Club Japan Awards. He recorded several CD's with the Tokyo Symphony Orchestra; Beethoven's 9th symphony, Bruckner's 8th Symphony, Mozart's Symphonies and Schubert Symphonies on the TSO label.

ロベルト・シューマン(1810～1856)

交響曲 第1番 変ロ長調 op.38「春」(マーラー版)

ロベルト・シューマンは生涯で交響曲を4曲作っている。中でも交響曲第1番は、クララと結婚して間もない1841年に作曲され、同年3月に初演された。この交響曲は、アドルフ・ベトガーの春の詩に靈感を受けて作られたと言われており、「春」というタイトルで知られる。

そして作曲家の死後、この作品はグスタフ・マーラーの手で編曲された。彼はウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者に就任して間もない1899年1月に、この交響曲を改変して指揮している。マーラーはシューマンを大いに賞賛しており、指揮者としての立場からオーケストレーションに手を加えることで、旋律線やリズムなど作品の魅力を引き出し、より一層シューマンが意図した効果が発揮されるようにしたのである。

この交響曲は以下の4つの楽章からなる。

第1楽章は壮大な序奏により華やかに始まったのち、急速なテンポによる快活な楽想が続く。

第2楽章は3拍子による緩徐楽章である。ヴァイオリンによる厳かで優美な旋律で始まるが、これは第1楽章の主要主題と関連性を持っている。そしてこの旋律が繰り返されながら曲が進むが、その際には細かい動きの伴奏によって、華麗な装飾が施される。

第3楽章は勢いのいいスケルツォである。この楽章では3拍子による短調の主題と、長調による同音反復の主題が交替しながら曲が進む。

第4楽章は終始急速なテンポであり、力強く軽快な曲調が続く。様々な性格の旋律が登場するが、その中にはピアノ曲《クライスレリアーナ》の第8曲の旋律も含まれる。また楽章の後半では突如フルートがカデンツァを奏するという、変わった試みも見られる。

マーラーの編曲は基本的に原曲に忠実である。しかし、例えば第1楽章の冒頭(トランペットとホルンのユニゾン)でホルンの数を増やしたり、また第2楽章の冒頭主題は本来第1ヴァイオリンのみで奏されるところを第2ヴァイオリンを加えたりと、随所で細かい変更を加えて、旋律を際立たせている。

佐野旭司 Text by Akitsugu Sano

作曲：シューマンの原曲：1841年1～2月 マーラーによる編曲：1899年1月

初演：1899年1月15日ウィーン、グスタフ・マーラー指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、トライアングル、弦5部

ヨハネス・ブラームス (1833 ~ 1897) / アルノルト・シェーンベルク (1874 ~ 1951)

ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 op.25

ブラームスのピアノ四重奏曲第1番は、彼がウィーンに移る前年に作った曲で、代表作の1つである。

この曲はシェーンベルクがオーケストラに編曲したことで有名である。シェーンベルクは無調音楽、とりわけ12音技法を用いた作曲で知られるが、その一方で先人たちによる伝統を重んじていた。中でもブラームスは彼にとって大きな存在であり、その作曲技法を自らの規範としている。そしてこのピアノ四重奏曲第1番の編曲は、彼と親しい指揮者のオットー・クレンペラーの提案によって行われた。シェーンベルクはブラームスのこの曲を愛していたと述べており、さらに彼の言葉からは、オーケストラ編曲によりこの曲の魅力を伝えようとしていた意図が伺えよう。

第1楽章は短調による不安げな旋律と、ゆったりとした旋律を主題とするソナタ形式である。この2つの主題はシェーンベルクによる巧みなオーケストレーションによって、豊かに彩られている。

第2楽章は3つの部分からなる。第1部分では短調のリズミカルな旋律が現れ、中間部では長調に変わり快活な曲想になる。そして第1部分の再現を経て、コーダでは中間部の素材が再び現れて静かに閉じられる。この楽章では木管楽器や弦楽器が中心となるが、弱音器をつけた金管楽器が時おり用いられ、音色に変化を与える。

第3楽章は3拍子の緩徐楽章。優美で明るい主題で始まるが、中間部では行進曲風の生き生きとした曲想に変わる。後者では金管楽器や打楽器が活躍し、特にグロッケンシュピールが輝かしい響きをもたらす。そしてこの中間部ののち冒頭の旋律が再現されるが、その際には激しい表情を見せる。その後曲は落ち着きを取り戻し、静謐の中に消え入るように閉じられる。

第4楽章はブラームスが「ジプシー風のロンド」と名付けており、短調による快活な旋律で幕を開ける。ここではシロフォンやタンバリンが、ジプシー音楽の賑やかさを作り出す。楽章の途中では遅いテンポによる情熱的な旋律がたびたび登場するが、最後は急速なテンポになり、冒頭旋律によって勢いよく終わる。

佐野旭司 Text by Akitsugu Sano

作曲：ブラームスの原曲：1861年 シェーンベルクによる編曲：1937年5月2日～9月19日

初演：1938年5月7日、ロサンゼルス、オットー・クレンペラー指揮、フィルハーモニック管弦楽団

編成：フルート3(ピッコロ持替1)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン持替1)、小クラリネット1、クラリネット2(バス・クラリネット持替1)、ファゴット3(コントラバス・ファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・テューバ1、ティンパニ、グロッケンシュピール、シロフォン、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンバリン、弦5部

12/28 THU. 29 FRI.

特別演奏会「第九」2023

2023年12月28日(木) 18:30 サントリーホール

2023年12月29日(金) 14:00 サントリーホール

Special Concert

Thu. 28th. December 2023, 18:30 Suntory Hall

Fri. 29th. December 2023, 14:00 Suntory Hall

ジョナサン・ノット [指揮]

三宅理恵 [ソプラノ]

金子美香 [メゾソプラノ]

小堀勇介 [テノール]

与那城 敬 [バリトン]

東響コーラス [合唱]

河原哲也 [合唱指揮]

小林宥成 [コンサートマスター]

Jonathan Nott, Conductor

Rie Miyake, Soprano

Mika Kaneko, Mezzo Soprano

Yusuke Kobori, Tenor

Kei Yonashiro, Baritone

Tokyo Symphony Chorus, Chorus

Tetsuya Kawahara, Chorusmaster

Issey Kobayashi, Concertmaster

ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調
op.125「合唱付」(65')

I.アレグロ・マ・ノン・トロツポ、ウン・ポコ・マエストーン

II.モルト・ヴィヴァーチェ〜プレスト

III.アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

IV.プレスト〜アレグロ・アッサイ

L.v.Beethoven : Symphony No.9
in D minor, op.125 "Choral" (65')

I. Allegro ma non troppo, un poco maestoso

II. Molto vivace - Presto

III. Adagio molto e cantabile

IV. Presto - Allegro assai

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●後援/在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

●本公演は、文化庁 文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業)により、18歳以下のための無料鑑賞席を設け300名の子供を招待しています。

本公演には休憩がありません。

楽曲解説はP.14をご覧ください



12/28 THU. 29 FRI.



©K.Miura

Jonathan Nott

Conductor

ジョナサン・ノット
[指揮]

Music Director
音楽監督

イギリス生まれ。フランクフルトとヴァースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、EIC音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017年よりスイス・ロマン্দ管音楽監督も務めている。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、世界の主要オーケストラ・音楽祭に客演。

2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞（オペラ・オーケストラ部門）」、2022年音楽の友誌「コンサート・ベストテン」国内オーケストラ最高位、毎日新聞クラシックナビ「音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン」第1位に選出。

レコーディング活動でも多彩な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、東響とはオクタヴィアレコードより多くのCDをリリースしている。

Among today's renowned and interesting conductors, Jonathan Nott, is probably the most fascinating. His unique talent unites what appear to be irreconcilable opposites, creating deeply emotional yet gratifyingly intellectual interpretations, connecting to his musicians at the very humblest level, and bringing an unusual depth of analysis and spontaneous, heartfelt music-making, both in the symphonic and operatic repertoires, and in the field of contemporary music.

In Japan – where he holds a 13-year contract as chief conductor of the Tokyo Symphony Orchestra – he enjoys near Popstar status, due not only to his intense and explosive aura while performing but also to his unusual programming creativity.

Unsurprisingly, he has conducted all major orchestras, performed with almost all famous soloists, and enjoys a long list of award-winning multi-channel recordings with TUDOR, SONY, PENTATONE (in 9.1 Auro 3D) and OCTAVIA.

Rie
Miyake
Soprano
三宅理恵
【ソプラノ】



東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。同大学院首席修了後、渡米。特待奨学生として、バード音楽院修士課程修了。日生劇場『フィデリオ』マルツェリーネ、P.ヤルヴィ指揮『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、新国立劇場『夜鳴きうぐいす』タイトルロール、『オルフェオとエウリディーチェ』アモーレ、『子どもと魔法』火／お姫様／夜鳴き鶯、C.ミョンファン指揮『ファルスタッフ』ナンネッタ等出演。コンサートでもF.ルイージ指揮サイトウ・キネン・オーケストラ『復活』、小澤征爾指揮水戸室内管『第九』等で好評を博している。二期会会員

Mika
Kaneko
Mezzo Soprano
金子美香
【メゾソプラノ】



東京音楽大学声楽演奏家コース首席卒業。同大学院、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院修了。新国立劇場『カルメン』『ジュリオ・チェザレ』『ポリス・ゴドゥノフ』、日生劇場『魔笛』、東京春祭ワーグナーシリーズ、飯守泰次郎傘寿記念《ニーベルングの指輪》ハイライト特別演奏会等多数出演。2018年にはパイロイト音楽祭『ワルキューレ』に出演し話題を呼んだ。オペラでの活躍の一方、コンサートでも全国各地のオーケストラと共演、日本歌曲等のリサイタルでも高い評価を得ている。平成24年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞。二期会会員

Yusuke
Kobori
Tenor
小堀勇介
【テノール】



©T.Tairadate

2019年第88回日本音楽コンクール声楽部門第1位。文化庁新進芸術家海外研修制度にてボローニャを拠点に留学。ペーザロのアカデミア・ロッシニアーナ2016、ルーネンバーグのロッシーニ・オペラ・アカデミー2016を修了し、指揮のA・ゼッダ氏から薫陶を受ける。チロル祝祭歌劇場にて《アルジェのイタリヤ女》のリンデーロ役でヨーロッパデビュー。帰国後はびわ湖ホール《連隊の娘》トニオ役を皮切りに、藤原歌劇団公演《チェネレントラ》ドン・ラミーロ、日生劇場公演《愛の妙薬》ネモリーノ、《セビリアの理髪師》アルマヴィーヴァ伯爵等に出演。日本ロッシーニ協会会員。

Kei
Yonashiro
Baritone
与那城 敬
【バリトン】



©Hiromi NAGATOMO

桐朋学園大学卒業、同研究科修了。文化庁在外研修員として渡伊。二期会『エフゲニー・オネーギン』タイトルロール、『フィガロの結婚』伯爵、『蝶々夫人』シャープレス、『金閣寺』溝口、新国立劇場『鹿鳴館』影山伯爵、『ばらの騎士』ファーニナル、香港オペラ『ラ・ボエーム』マルチェロ等多数出演。コンサートにおいても、オルフ『カルミナ・ブラーナ』、マーラー『大地の歌』、フォーレ『レクイエム』の他、K.ウルバンスキ指揮東京交響楽団シマノフスキ『スタバト・マーテル』等古典から現代作品まで幅広く活躍している。二期会会員

12/28 THU. 29 FRI.

Tetsuya Kawahara

Chorusmaster **河原哲也** [合唱指揮]

東京音楽大学指揮科卒業。東京音楽大学研究科指揮専攻修了。

指揮を三石精一、松本紀久雄、音楽理論を有馬礼子の各氏に師事。

大学在学中よりオペラ公演の音楽スタッフとして活動を始め、現在、新国立劇場・東京二期会・日本オペラ振興会等に於いて音楽スタッフとして合唱指揮・副指揮を務めている。



Tokyo Symphony Chorus

Chorus **東響コーラス** [合唱]

1987年に東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。指導には、演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した合唱指揮者、発声指導者、伴奏ピアニスト、言語指導者を招いている。公演毎に出演者を決定するオーディションを行うことで、常に演奏の質を高めている。2020年には第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「室内楽・合唱部門」受賞。

コロナ禍によりしばらくの活動休止期間を経て、2021年9月「名曲全集」にて東京交響楽団と2年ぶりの共演。音楽監督ジョナサン・ノットと2年半ぶりの共演となった2022年5月「ウォルトン：ベルシヤザールの饗宴」、同年12月「ベートーヴェン：交響曲第9番」は絶賛を博した。

メンバー表

●合唱指揮：河原哲也

稽古ピアニスト：古瀬安子
発声指導：大沼 徹、高橋 淳
武内朋子

●委員長 岡野一哉 (Bas.)

●副委員長 鳥居順子 (Sop.)
堀 浩史 (Bas.)

●パートリーダー

Sop. (正) 遠藤由理 (副) 岡 邦子
佐藤由紀子

Alt. (正) 水越睦美 (副) 岡橋麻衣
齋藤由紀

Ten. (正) 枇杷高志 (副) 内山誠彦

Bas. (正) 水野 敬 (副) 竹内誠治

●コーラス委員

Sop. 草野真由美、森田恵子
山下由美子

Alt. 竹内あゆみ、奥崎幸子
吉村美恵子

Ten. 大崎 純、奥貫壮史
木村 健

Bas. 荒木康司、杉山慎二

Soprano

相田奏寿紀
石井真穂
石井 恵
石村友希子
伊藤貴子

岩元邦子
遠藤由理
大貫由香
岡 邦子
小田切明子

金杉知子
川崎仁美
川之上裕美子
草野真由美
佐藤かえで
佐藤深雪
佐藤由紀子

島崎尚美
鈴木信恵
鈴木美和
瀬沼紀子
鳥居順子
仁平朋子
松本恵美

森田恵子
森本由希
山下由美子
山田美生子
山津裕美
山之内文子

Alto

石渡範子
伊藤晴子
大内田由紀子
大島裕美子
岡橋麻衣
奥山由里
尾崎いずみ
尾田雅代
垣花亜妙子
加藤由美子
菊池万美子

岸本裕子
木内道子
小林朋子
小張さゆり
齋藤由紀
坂元靖子

坂本タカ子
佐々木美登
須田真理子
関口あずみ
高田恵子
竹内あゆみ

田中美樹
都築靖子
外山恭子
根津千佳子
日野由美子
藤崎幸子
藤田 栄
水越睦美
吉井久美子
吉岡美佳子
吉村美恵子
渡邊朋子

Tenor

新 修治
内山誠彦
大崎 純
小川英樹
奥貫壮史

奥村博康
木村 健
木村 貴
住吉保人
竹内邦夫
竹田 忍

田戸陽一
谷川俊一郎
塚本 隆
佃 浩一
辻 直浩
中原裕幸
西 宏隆
野口 晃
服部俊治
枇杷高志
古牧泰山
増淵 隆
水谷靖彦
和田 敏

Bass

荒木康司
安藤志津夫
大足史郎

岡野一哉
河村太郎
菊池 靖
木内正則
河野 愛
小山治彦
篠田一朗
杉山慎二
清水 達
竹内誠治
土井 丈
中村基孝
秋野 慎
花田和彦
早川克己
堀 浩史
松木 望
水野 敬
宮坂知明
柳谷一彦
矢野 通
山之内達也

ユベール・スダーンと

東京交響楽団

奥田佳道 (音楽評論家)



ほんの気持ち前かがみになり、伸ばした両腕を、小気味よく、時に烈しく動かす。楽想の峰や頂では上体が開く。この人はずっと前から指揮台も指揮棒も使わない。スコア、奏法を研究し尽くした上で、目指すべき音楽に向かってひたむきに振る。77歳だが、経歴、名声に頼らない。

古典の様式美にもロマン派の息吹にも一家言ある硬派熱血漢の桂冠指揮者ユベール・スダーン(1946年3月オランダ、マーストリヒト生まれ)が、愛してやまない作品を携え東京交響楽団のステージに帰って来る。

東響とCDも制作したマーラー編曲(校訂)のシューマン「春」、それに近年大人気を誇るシェーンベルク編曲のブラームス／ピアノ四重奏曲第1番とは、ほぼ緩む選曲だ。2009年の陽春から2010年の春にかけて、スダーンと東響が奏でた“マーラー編曲版シューマン交響曲チクルス、ブラームス添え”(正式シリーズ名に勝手に加筆)を思い出す。

今回も凝っている。ドイツ語の詩と呼応した「春」冒頭のファンファーレから、管

弦打楽器の「響宴」が熱狂を招くシェーンベルク編のジブシー風ロンドまで、聴きどころは尽きない。

今度のコンサートは、ブラームスの「ヴァイオリンとチェロのための協奏曲」とシューマンの「ライン」をメインとした昨年11月の東京オペラシティシリーズ／新潟定期演奏会の楽しみな続編ですね、という声も聞こえてくる。

時空をひらりと超える。シェーンベルクと言えば、2011年11月のモノオペラ「期待」も好ましい話題を呼んだ。「期待」はヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場でも指揮した十八番だった。2005年5月「トゥーランドット」ベリオ補筆版と2006年5月の新国立劇場「皇帝ティトの慈悲」もスダーンと東響の財産である。

表現したいことが多く、それがあの「手さばき」にも現れるスダーンは2004年9月、武満徹の「ア・ウェイ・アローンII」とベートーヴェンの交響曲第9番を指揮して東響第2代音楽監督に就任し、2014年

3月、「皇帝」とシューベルトの交響曲第2番のプログラムで音楽監督のポストを満了した。就任前も退任直後も普通に指揮しているの、前述の年月はまあ便宜的なものだが、10年という彼が望んだ任期中に、東響がウィーン古典派、ドイツ・ロマン派の調べを仲立ちに鍛えられ、高みを目指すようになったことはあらためて申すまでもない。

第9のCD解説を書く際に話を聞いた。取材メモを引っ張り出す。

「(就任前の)2003年7月に指揮したベートーヴェンの交響曲第7番が良かった。東響とはハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、ブルックナーを演奏したい。でも私は新ウィーン楽派、ルーセル、オネゲル、ブーレーズも好きだ。オペラもやりたい」。

当時のマエストロは、私のことをドイツ語が少し出来る東響の広報スタッフとっていたようで(それはそれで嬉しい)、インタビューの途中から同席した楽団幹部スタッフに「この人は、ムジークフェライン(ウィーン楽友協会)で、私が指揮したブルックナーやオネゲルの『ダヴィデ王』を聴いている。いい人を雇いましたね」と嬉しそうに話すのだった。

CDリリース後、東響をずっと応援していたチェスキーナ永江洋子さん(1932～2015)から国際電話があった。

「第9聴きました。東響はいい指揮者を見つけましたね。ユベール・スダーンさんは今もイタリアに住んでいるのかしら」

いっぽう2014年3月定期演奏会のメインは、2008年／09年の<シューベルト・チクルス>で圧巻の出来栄えを示した交響曲第2番だった。公演直前に急逝

した東響の若きチェリスト井伊準氏(栄誉団員)に捧げるマエストロの心のこもった言葉と「ロザムンデ」間奏曲が今も脳裏に響く。

名匠秋山和慶(1941年1月生まれ)とともに東京交響楽団の桂冠指揮者に叙せられているユベール・スダーンは1997年11月、東京交響楽団と出逢った。51歳だった。再客演、再々客演が続くなかで、オーケストラにとっても聴き手にとっても、鮮烈な音像と構築性をあわせもつドイツ・オーストリアの逸品たち、それに奇をてらわないブルックナーが楽しみになってゆく。

音楽監督就任後は、アンサンブルの縦の線をきっちり整えただけではどうにもならない交響曲で成果を挙げた。前述のように、得点の稼ぎにくいシューベルトの初期交響曲で魅せた。驚がくの転調と執拗な繰り返しを音楽的に生かした演奏に喝采が送られる。ブルックナーは2009年3月にミュンヘン・ザクセンホールでセッション録音された壮大な交響曲第7番で、ひとつの頂点を築く。

夏のザルツブルク音楽祭の名物企画モーツァルト・マチネの美学を、ミュンヘン・ザクセンホールと兵庫県立芸術文化センター／同管弦楽団に授けたのも、2004年までザルツブルク・モーツァルト管弦楽団の首席指揮者を務めたユベール・スダーンの功績である。コロナ禍の日本のオーケストラに手を差し伸べたことも記しておきたい。

東響／東京以外からのオファーも多い職人肌のマエストロ。2023年を締めくくる定期に、さあ登場だ。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名（敬称略）

法人
会
員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
株式会社すかいらーくホールディングス
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鹸株式会社
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロ株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社



©N.Ikegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
～29,999円

フレンズ3

年額3万円
～49,999円

フレンズ5

年額5万円
～99,999円

サークル10

年額10万円
～249,999円

サークル25

年額25万円
～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけではなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

| 会員特典 | 詳細はHP、 又はお電話でお問合せ下さい | 法人会員 | | フレンズ会員 | | |
|---------------------|-------------------------|------------|-------|--------|-------|---|
| | | サークル 会員 | フレンズ5 | フレンズ3 | フレンズ1 | |
| 主催公演へご案内 | | ○ | ○ | | | |
| ゲネプロ見学会(年3回以上) | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| リハーサル見学会(年3回以上) | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ご芳名掲載 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 主催公演チケット先行予約*1 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 公演チケットをご優待価格にてご案内*2 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合：「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分*3について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合：「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。*3

*3但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

東響唯一のフレンチ・ボウ・プレイヤー

コーディ・ローズブーム

Cody Roseboom

[コントラバス奏者]2022年1月入団

趣味: ジャズやボサノバなど様々な音楽のレコードを
コレクションすること



©N.Ikegami

Why Not ?

コントラバスとの出会いは10歳のときです。もともと母がコントラバスを弾いていたのですが、肩を怪我してしまい演奏できなくなってしまいました。「高価な楽器だし、誰かに弾いてほしい」と、私と妹が呼ばれ、どちらが楽器を引き継ぐかをコイントスで決めることになりました。あのとき裏面が出ていたら、私は違う人生を歩んでいたと思います(笑)。

という始まりなので、当時はコントラバスがあまり好きではありませんでした。身長が高かったので、周りからも「何も問題ないね!」と言われていましたが、そもそも楽器を弾いたことがなく、初めての楽器がコントラバスでした。ですが、音楽がどんどん楽しく、好きになっていき、アメリカのオーケストラで演奏していくうちに、音楽は自分で楽しむ以上のもの、仕事としてやっていくものだと思ふようになりました。その時にちょうど見つけたのが兵庫芸術文化センター管弦楽団「PACオーケストラ」の募集。それまで日本には訪れたこともなく、「ポケモン」と「着物」くらいしか知らなかったのですが、行くことに決めました。何故か?それは「Why Not(やってみたら)?」です(笑)。

日本5年目のオーケストラ生活

PACはインターナショナルなオーケストラだったので、東京交響楽団が初めての日本のオーケストラでした。アメリカのオーケストラはもっとStrictな、厳しい感じがしていましたが、ここは川のように自然で、とてもリラックスをしている感じ。アメリカのオーケストラでは、6~7割がフレンチ・ボウを使用していましたが、日本では珍しいんですね。環境も全く違って最初は緊張していましたが、すぐに慣れました。

料理も好きで、日本食も大好きです。特に好きなのは、そばやお好み焼き、丼などのB級グルメ。あと、電車が最高!車移動がストレスだったので、今は電車移動を楽しんでいます。



コントラバスを始めた頃。「既に(コントラバス奏者の)渡邊淳子さんくらい身長があった」10歳のとき。

インタビュー:事務局

NEXT PROGRAM

2024年

1/7 ニューイヤーコンサート2024
(日) 14:00 サントリーホール

※1/6 (土) 14:00 横浜みなとみらいホールも同プログラムで開催

：指揮：秋山和慶、ピアノ：小山実稚恵

- ：J.シュトラウスⅡ：ワルツ「春の声」
- ：ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番
- ：ドヴォルザーク：交響曲 第9番「新世界より」

SSシングル¥9,000 SSペア¥16,000 S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000



原田慶太楼×亀井聖矢 コンチェルト・ナイト&アフタヌーン

3/25 (月) 19:00 東京芸術劇場コンサートホール

- ：チャイコフスキー：歌劇「エフゲニー・オネーギン」から ポロネーズ
- ：プロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第3番
- ：ガーシュウィン：ピアノ協奏曲 ヘ調

S¥7,000 A¥5,000

3/26 (火) 14:00 横浜みなとみらいホール

- ：チャイコフスキー：歌劇「エフゲニー・オネーギン」から ポロネーズ
- ：プロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第3番
- ：ショパン：ピアノ協奏曲 第1番

S¥6,500 シルバー (65歳以上) ¥6,000 A¥4,000



3/30 (土) 第718回 定期演奏会
18:00 サントリーホール

：指揮：原田慶太楼、ピアノ：オルガ・カーン

- ：藤倉大：Wavering World
- ：シベリウス：交響曲 第7番
- ：ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番

S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000 C¥4,000 P¥2,500



6/15 (土) 18:00 サントリーホール

6/16 (日) 17:00

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コン서트ホール

：指揮：ドミトリー・マトヴィエンコ

- ：ツェムリンスキー：交響詩「人魚姫」
- ：ストラヴィンスキー：バレエ音楽「ペトルーシュカ」(1947年版)

[6/15] S¥8,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,500 P¥3,000

[6/16] S¥7,500 A¥6,000 B¥4,500 C¥3,000 D¥2,000



TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511 (平日10:00～18:00 / 土日祝休)

りゅーとぴあチケット専用ダイヤル 025-224-5521 (11:00～19:00 / 休館日除く)

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し現在に至る。サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行い、文部大臣賞を含む日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。新国立劇場のレギュラーオーケストラを務めるほか、川崎市や新潟市など行政と提携した演奏会やアウトリーチ、「こども定期演奏会」[0歳からのオーケストラ]等教育プログラム、ウィーン楽友協会をはじめとする海外公演も注目されている。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集め、《サロメ(演奏会形式)》は、毎日新聞クラシックナビ「2022年開催公演ベスト10」第1位、音楽の友誌「コンサート・ベストテン2022」で日本のオーケストラとして最高位に選出された。

Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world, and its Salome in Concert Style was selected as the best Japanese Concert in the "Concert Best Ten 2022" by Ongaku no Tomo magazine, and won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra' s amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 40 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO' s home and Mozart' s Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
[TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION]

1か月550円(税込)



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE
Symphony

Symphony 2023年(令和5年)12月号 [非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュゼ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト